

問題 9-1 予算編成

レベル：B

当社は製品 X を生産・販売しており、標準直接原価計算を採用している。下記の〔資料〕に基づき、20×4 年第 2 四半期の 7 月の予算を編成し、直接原価計算に基づいた月次の予定損益計算書、予定貸借対照表および予定キャッシュ・フロー表を答案用紙の形式にしたがって作成しなさい。なお、不要な箇所には「-」（バー）を付すこと。

〔資料〕

1. 製品 1 個あたりの変動製造原価

直接材料費	50 円/kg×3 kg/個	150 円/個
変動加工費	150 円/時×2 時間/個	300 円/個
変動製造原価合計		<u>450 円/個</u>

2. 20×4 年 6 月 30 日における貸借対照表（単位：円）

流動資産		流動負債	
現金	1,500,000	買掛金	726,120
売掛金	4,819,500	借入金	<u>3,876,000</u>
製品	720,000	計	<u>4,602,120</u>
材料	<u>361,800</u>	固定負債	0
計	<u>7,401,300</u>	負債合計	<u>4,602,120</u>
固定資産		純資産	
建物・設備	20,000,000	資本金	30,000,000
土地	<u>30,000,000</u>	剰余金	<u>22,799,180</u>
計	<u>50,000,000</u>	純資産合計	<u>52,799,180</u>
資産合計	<u>57,401,300</u>	負債・純資産合計	<u>57,401,300</u>

(注) 製品は変動製造原価で計上されている。また、建物・設備は減価償却累計額差引後の数値である。

3. 販売数量及び在庫量予算データ

(1) 販売数量

6 月(実績値)	8,100 個
7 月	8,000 個
8 月	8,200 個
9 月	8,400 個

(2) 各月末製品所要在庫量は、翌月製品計画販売量の 20% である。なお、仕掛品の在庫はない。

(3) 各月末材料所要在庫量は、翌月材料計画消費量の 30% である。

4. 損益予算データ

(1) 販売単価は製品 1 個あたり 850 円である。

(2) 固定加工費の月次予算は 2,000,000 円であるが、うち 300,000 円は減価償却費である。

(3) 変動販売費は製品 1 個あたり 30 円である。また、固定販売費及び一般管理費の月次予算は 700,000 円であるが、うち 60,000 円は減価償却費である。

5. 資金予算データ

(1) 売上には現金売上と、代金を一定期間経過後に回収する掛売がある。売上代金の 30% は販売を行った月の月末に、70% は翌月末に現金で回収される。なお、貸倒れはない。

(2) 仕入にも現金仕入と、代金を一定期間経過後に支払う掛買がある。仕入代金の 40% は仕入を行った月の月末に、60% は翌月末に現金で支払われる。

- (3) 変動加工費，変動販売費はすべて現金支出費用である。また，減価償却費を除く固定費はすべて現金支出費用である。
- (4) 7月に機械の購入を予定している。機械の取得原価は512,000円であって，7月末に購入，現金決済をする予定である。この機械は8月から稼働するため，当該機械に関する減価償却費は8月から計上される。
- (5) 各月末に保有すべき最低の現金残高は1,500,000円である。
- (6) 各月の営業活動及び投資活動による収支の結果，月末において現金が必要額に満たない場合には，月末に不足額について借入を行い，必要額を超過する場合には，月末にその超過額を借入金の返済に充てる。各月の支払利息は計算を簡略にするため，本問の解答に当たっては，その月の月初の借入金残高に月利0.5%を乗じて計算し，その金額を月末に現金で支払う。

〔答案用紙〕

予定損益計算書(単位：円)

売上高	
変動製造原価	
変動販売費	
貢献利益	
固定製造原価	
固定販管費	
営業利益	
支払利息	
経常利益	

流動資産	
現金	
売掛金	
製品	
材料	
計	
固定資産	
建物・設備	
土地	
計	
資産合計	

予定貸借対照表(単位：円)

流動負債	
買掛金	
借入金	
計	
固定負債	
負債合計	
純資産	
資本金	
剰余金	
純資産合計	
負債・純資産合計	

予定キャッシュ・フロー表(単位：円)

月初現金有高	
現金収入	
売上回収	
利用可能現金	
現金支出	
直接材料費	
加工費	
販売管理費	
資本支出	
財務取引前現金有高	
財務取引	
借入金増加	
借入金返済	
借入金利息	
月末現金有高	